

(別紙4)

1 自己評価及び外部評価結果

平成 29 年 3 月 3 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3371100375	
法人名	(株)メディカメント	
事業所名	グループホームいやしの家備前(さくらユニット)	
所在地	岡山県備前市伊部323-1	
自己評価作成日		評価結果市町村受理日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人あしすと
所在地	広島県福山市平成台31-34
訪問調査日	平成29年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「備前焼の里」の落ち着いた環境の中、朝は日光浴をかね玄関のベンチで歌を歌ったり、体操をして始まります。そのあとは家庭菜園、掃除など思い思いの時間を過ごされています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、利便性の良い住宅街の一角にあり、「基本的な人権の保護・家庭的な生活・生甲斐のある生活」の理念を掲げている。事業所は、掃除が行き届き、玄関には地域の絵手紙教室の作品が飾られ、明るく温かみを感じられる。職員は、一人ひとりの利用者の得意なことを引き出し、洗濯物干し・菜園の草取り・食事の準備や片付けなど、利用者のできる事を、一緒に行っている。朝、天気の良い日は玄関先のベランダに出て、体操や歌を唄うことから一日が始まり、昼食後は1時間余り、体を休めるため居室で過ごすなど、配慮がされている。入浴は隔日にあり、利用者の皮膚の観察をするとともに、保湿ケアにも気配りを行っている。利用者個人個人のアルバムを作り、家族の面会時に紹介したり、介護記録も面会時に読んでもらい、利用者の日常が把握できるよう工夫をしている。
--

自己評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに3つの理念を掲げ2か月ごとのカンファレンスで共有している。	理念は具体的に理解しやすく、日々の支援の基礎となっている。職員は、理念を共有し、利用者の好きなことを、利用者の能力を活かし、利用者のペースに合わせて生活の支援を行うことに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園やボランティアなど交流を深めている	コーラス、踊り、ギター演奏など多方面からのボランティア活動が行われ、利用者は楽しんでいる。保育園児との交流や中学生の体験学習、大学生の実習も行われ、地域とのつながりがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年夏休みに中学生のボランティアを受け入れ認知症の理解を深めてもらっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、民生委員、家族に参加していただき、近況報告や話し合いを行いサービス向上にいかしている	市職員、民生委員、家族の参加を得て近況報告、活動報告を行い、意見交換を行っている。現在は、定期的開催には至っていないが、前向きに検討している。	町内会、包括など多方面の参加を得て、定期的な開催を行い、地域との交流がさらに深まることを、期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況など必要に応じて連絡をとっている。	市職員が運営推進会議に参加しているため、事業所の入所状況も共有し、市が開催する研修などにも参加する。また管理者は、市から在宅医療の介護連携推進協議会の委員を依頼され、活動をしている。	

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠など基本的な禁止の対象は理解している。疑問に思うことはその都度話し合っけてケアに取り組んでいる。	玄関は解放されており、音センサーでチャイムが鳴り、出入りが確認できる。利用者が、事業所の外に出たい時には、職員が付き添う。疑問に思うケアがあれば、毎日のミニミーティングで検討し、職員で共有する。	
7		○虐待の防止の徹底りようし 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員間で日ごろからケアの仕方に注意をはらうよう指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加して学んだことは職員間で共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はゆったりとした時間と質問しやすい雰囲気を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族に出席していただき近況報告をしたり意見聞いて運営に反映している	運営推進会議で、家族の意見を聞いている。また家族の訪問の機会作りのため、利用料を持参してもらい、利用者の状況説明や意見を聞いて運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	二か月毎のミーティングで意見や提案を聞いて運営に反映させている。	職員の意見や提案は、毎日のミニミーティングや、2ヶ月に1度のミーティングで聞いている。管理者は日頃から、職員が意見を言いやすい関係づくりをし、提案があれば、まずやってみようの姿勢で応じている。	

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力を活かせるように過度の介護をせず家事などのできることを職員と一緒にしていただくようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も家族との絆が薄れないよう面会時には居室でゆっくりと時間を過ごしてもらうようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないよう面会時の対応を心掛けている。	面会があれば、居室でお茶のおもてなしをし、ゆっくりと過ごしてもらうよう配慮している。利用者が、入所前に通っていたデイサービスに通いたいと希望し、家族の了解を得て、週に1度通っている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無理をせず利用者の個性を大切にしつつ利用者同士が支えられるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽に訪問しやすい環境を作っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の意思を尊重してできるだけ希望にそえるようにしている。	入居後1か月は、その利用者を理解することに重点を置き、様子を観察して記録に残し、職員で共有している。思いの把握が困難な利用者には、表情から汲みとったり、返事が返しやすい問いかけをしている。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に今までの生活歴の聞き取りをしっかりと入居後に活かしている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日ごろからしっかりと様子観察していつもと違うことがあれば申し送りでつないでいくようにしている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	二か月ごとのカンファレンスでモニタリングを行い家族の意見を参考に介護計画を作成している。	利用者の思いや家族の意見は、日頃の会話から把握し、介護計画に反映している。利用者の状況が分かるよう、介護記録は家族の面会時に開示している。入居後1か月は暫定プランを作成し、その後2ヶ月に1度、モニタリングをしている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活が見えるような記入にし、家族職員で共有している		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今までの生活歴や家族の状況に合わせてひとりひとりのニーズに合った対応をしている		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのイベントなどに参加して楽しむよう支援している。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と今までのかかりつけ医の関係を継続出来るように納得のいく医療をうけられよう支援している。	かかりつけ医の継続や協力病院への変更は、家族の意向に応じている。協力医の往診は、隣接する事業所と交互に隔週あり、訪問看護師は、月に3回訪問している。協力病院との関係もよく、夜間の対応も、できる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期の訪問看護で看護師に報告し指示をもらったり受診の相談を主治医と相談してもらって適切な支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問看護や往診後に情報交換の時間を設けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が無い場合、家族、訪問看護、主治医と看取りの話し合いをし納得のいく支援に取り組んでいる。	契約時に、説明を行い、意向の確認を行っている。状態が重度化すると、医師が家族に説明を行い、情報の共有をしている。終末期には、再度医師が家族に説明を行い、病院に移動されることが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日ごろから様子観察をしっかりし申し送りで初期対応の時期を逃さない実践力を職員は、身に付けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼、夜の想定で避難訓練をしている。	事業所で、昼と夜を想定し、年2回の避難訓練をしている。今年は消防署からの呼びかけで、臨時で地域住民と共に、消火訓練も行った。水消火器の使用訓練も職員は経験している。災害時の備蓄もしている。	事業所で行っている年2回の避難訓練うち、1度は消防署の協力を得て一緒に行い、より実践的で専門的なアドバイスを受ける取り組みを、検討されることを期待する。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員優先でなくひとり一人の性格を把握した対応を心掛けている。 仕事優先でなく利用者の思いを優先するよう努めている。基本的には、名字で呼ぶが、入居前に家族が呼ばれていた呼び名で呼ぶこともある。部屋に入る時には、ノックをし、お風呂に着替えを準備する時は、カバーを掛けなどの配慮をしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	トイレ誘導、入浴など生活のなかで利用者のその時の希望を聞き業務優先にならないようにしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	押し付けにならないように一人一人のペースにそって支援している。
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服やアクセサリでおしゃれを楽しんで頂いたり意思表示の困難な方には同じ服に偏らない配慮をしている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材で季節感を出したり好みを聞いたり準備や片付けも一緒にしている 週2日は、利用者に人気のパンの日としたり、魚屋も週2回、事業所訪問するため、新鮮な刺身の日もある。利用者は、下ごしらえなどできる事を一緒にやっている。庭で食事をするなど工夫をし、楽しんでいる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や体調を把握し支援している

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはできないところは介助し、入眠前には義歯の消毒を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートで排泄パターンをつかみ一人一人にあったトイレ誘導をしてトイレでの排泄を基本にしている。	トイレに行った・行ったけど出なかった・すでに出ていたなどの表示方法を工夫し、次の誘導の参考にしている。トイレで座位保持ができるよう、食事の時にも車椅子から椅子に座り替え、座位保持訓練をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便リズムを把握して飲み物の工夫や薬の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	隔日の入浴にしているが、一人一人の希望も取り入れ入浴を楽しめるよう支援している。入浴後には保湿ケアにも努めている	入浴は、隔日に行い、一番風呂の好きな人・ぬるま湯の好きな人など利用者の希望に応じている。入浴中、職員は会話を大切に、入浴剤や柚子湯など香りや視覚でも楽しむ工夫をしている	
46	n	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を決めず就眠まで思い思いの時間を過ごしていただき気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人一人の薬を把握しており薬の疑問のあるときには薬剤師に尋ね納得のいく服薬支援をしている。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のできる力を活かし楽しみながら役割ができるように		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日ごろからご家族に外出のお願いをしている。季節の良い時期にはホームの行事として出かけている。	家族と共に、自宅に帰る・墓参りなど外出の機会がある。事業所の行事で、花見・紅葉狩り・バラ園・地域の文化祭に行くなど、外出の機会が多い。また天気の良い日は、玄関のベンチや庭で過ごしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば買い物に同行したり、代理で買い物をする支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から友人や親せきの連絡先を聞いておき本人の希望が叶うように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招くようなものや障害になるものは除き季節感のあるもので工夫している。	玄関先には、両側にベンチが置かれ、玄関の壁には地域の絵手紙クラブの方の作品が多数飾られている。。明るく、清潔感のあるリビングは掃除も行き届いており、居心地の良さが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の間など思い思いに過ごせる居場所を作っている。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族や面会者がくつろげるよう本人、家族で工夫して頂いている。	広い窓のある居室は明るく、自宅から、机や椅子などが持ち込まれている。家族や愛犬の写真が飾られ、レクリエーションで作成したかごに、思い思いに身の回りの物が整理されており、居心地の良さが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動ができるよう障害になるようなものは置かないようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない